

2026年度(令和8年度)学校評価自己評価表

培遠中学校区	校番 27	福山市立 春日小学校
最終更新日		2026年(令和8年)4月 1日

I 福山市

めざす姿	すべての子どもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現
------	---------------------------------

II 中学校区

<p>前年度学校運営協議会(学校関係者評価)の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校として大変な状況も多々あると思うが、学力向上や不登校の減少等、子どもたちのためにがんばってほしい。</li> <li>コミュニティ・スクールが始まるが、現状の地域との関係を維持しながら進めてほしい。また、地域とのつながりを大切にする子ども達の成長が楽しみである。引き続き、地域との連携・協力をよろしく願いたい。</li> </ul>	<p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校では学ぶ意欲はあるものの、全国学力学習状況調査における教科学力は若干下回っている。</li> <li>中学校では、生徒会活動を中心に、学校の課題の改善に努める取組が充実してきた。</li> <li>中学校における長期欠席の生徒は全体の6.0%である。(R5 全国平均 8.5%)</li> </ul>	<p>育成する資質・能力</p> <p>めざす子ども像(義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>課題発見力、論理的思考力、コミュニケーション力、粘り強さ</p> <p>自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>次のステージへ進むための確かな学力の定着</li> <li>発信・表現の充実を踏まえた生活科・総合的な学習の時間の単元づくり</li> <li>相手・目的意識をもたせた特別活動の充実</li> </ul>
---	---	--	--

III 自校

<p>学校教育目標</p> <p>こころゆたかに、自ら伸びる</p>
------------------------------------

<p>現状</p> <p>&lt;児童生徒&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>落ち着いて学びに向かう児童が増えた。</li> <li>教職員の肯定的な声掛け、図工作品展や校内俳句表彰、校外活動での活躍の表彰などを通して、児童の自己肯定感は高まってきている。</li> <li>2年生から6年生までの全学年において標準学力調査結果が全国平均を下回るなど、学力面において課題が大きい。</li> </ul> <p>&lt;授業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活科及び総合的な学習の時間で身に付けさせたい力や ICT 機器活用能力の学年ごとのルーブリックを作成し、1、3年の老人クラブとの交流、2年生町たんけん、6年の春日のまちをどのように盛り上げていくかについて考え実行する等、地域とのつながりを深める学習が広がった。</li> <li>学力向上をどのようにして進めるが大きな課題であり、定着度が低い児童へフォローを継続して行っている。</li> </ul>
--

育成する力 脂質・能力	課題発見力	論理的思考力	コミュニケーション能力	ねばり強さ	
めざす子ども像	低学年	「不思議だな」「何故かな」を見つけることができる。	事柄や時間の順序を整理しながら考えることができる。	自分の思いや考えを相手に伝えることができる。	自分がやるべきことを、あきらめないでやり抜くことができる。
	中学年	自ら問いを見つけ、既習内容や方法で解決することができる。	因果関係を整理し、筋道を立てながら考えることができる。	自分の考えと相手の考えを比べながら伝え合うことができる。	目標を持って最後までやり抜くことができる。
	高学年	自ら問いを見つけ、見通しを持って調べたり、考えたりしながら、解決することができる。	因果関係を整理し、筋道を立てたり、根拠を明確にしたりしながら考えることができる。	多様な考えを受け入れながら、自分の考えを伝えることができる。	自分の役割を自覚し、役に立つ喜びを感じながらやり抜くことができる。
研究	テーマ	子どもが「学びの実感」を得られる国語科の授業づくり			
	内容等	児童の学習意欲や学力が高まる授業づくりを行う ○単元全体を見通した魅力的な単元づくり ・学びの必然性のある単元のゴール ・魅力的な発問 ・話し合いを深めるための切り替えし			
めざす授業の姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>「わかる」「できる」「もっとやりたい」と学びを実感する授業</li> <li>付けたい力を意識した単元づくりにより学びを深める授業</li> <li>子どもが言葉にこだわって読み、自分の考えを表現できる授業</li> </ul>				

## IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価
2	学力の向上	★	継続	・自ら学ぼうとする 意欲を育む。	・毎週1回教材研 究の時間を設定 し、単元全体を 見通した授業づ くりを行う。	・国語科児童アン ケートにおいて、 国語の授業が 分かると回答す る児童を80% 以上。								
			★	・国語科において、 基礎学力の定着 を図る授業づくり を行う。	・教材研究→プレ テスト→児童の つまずきを把握 →授業→手だて などは有効であ ったを検証 ・週1～2回朝の時 間に問題を解き 答えの解説、2 週間に1回学習 したことを検定	・国語科学期末テ スト(初見の問 題)において、正 答の平均を80 点以上。								
2	自他を尊重し、 社会の一員とし ての自覚を持っ て自律的に行動 できる児童の育 成	継続	継続	・自ら進んであい さつをする学校風 土を醸成する。	・教職員や児童会 (委員会)の人 よりも早くあいさ つをするプロジ ェクトなどを立ち 上げる。 ・あいさつレベルチ ェックシートを活 用し、自己評価 を週一回行う。	・「自分から進んで 元気よく、気持ち のよいあいさつを している。」と回答 する児童を75% 以上。								
			新規	・自己管理能力の 育成(身だしな み)。	・生徒主導の「身 だしなみガイドラ イン」を作成し、 ポスターで全校 に啓発する。 ・身だしなみチェッ クシートを活用 し、自己評価を 行う。	「身だしなみが整っ ている。」と回答 する児童を80% 以上。								
2	自らの生活を 律する心の育 成と体力の向 上	継続	・小学校年代にお いて育成すべき 体力向上、基本的 生活習慣の確立	・進んで運動をする 児童を増やすた めに教室にドッ ジビーやボール を配布する。ま た、積極的に運動 に親しむことが	・「運動に取り組ん でいる」と回答す る児童が70% 以上。									

				に取り組む。	できるように、委員会と連携して運動する機会を設ける。 ・保護者の協力を得て家庭での生活を見直すとともに、メディアコントロール習慣の取組を継続する。														
2	教職員が意欲的に働くことができる環境づくり		継続	・教職員が意欲的に学校運営に参画する職場づくりを推進する。	・学年主任会等を活用し、学校運営面でより幅広く教職員からの意見を求めながら参画意識を醸成する。	・家庭でのメディア使用の時間2時間未満70%以上													

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。